

博多とアジアの映画(117)

松　浦　仁

1978(昭和53)年、ロー・ウェイプロダクションとの契約が続いていたジャッキー・チェンは、ロー・ウェイ監督で「鬼手十八翻」を韓国で撮影していたのだが、ロー・ウェイとの不仲が原因で撮影を放棄してしまふ。擦った揉んだしたあげく、「鬼手十八翻」の製作を中止するかわりにジャッキー・チェン主演・監督の別の作品を製作し、ロー・ウェイプロダクションが配給すること落ち着く。1979(昭和54)年、ジャッキー・チェンは、個人プロダクション、豊年影業公司(グッドイヤー映画社)を設立して、「笑拳怪招」(1979、英題は「The Fearless Hyena」、邦題はクレージー・モンキー笑拳)を製作する。「笑拳怪招」は香港の年間興行成績ランキング2位を記録して大ヒットし、ジャッキー・チェンはコミカルさに人間がもつ4つの感情である喜怒哀楽を織り込んだ新しいカンフー・アクション映画のスタイルを確立した。

ジャッキー・チェンは「笑拳怪招」の完成後、ロー・ウェイ映画社の最新作「龍騰虎躍」(英語題は「The Fearless Hyena」、邦題はジャッキー・チェンの醒拳)に主演し撮影開始早々に、ロー・ウェイプロダクションとの契約解除を申し出る。ところが、ロー・ウェイは契約書の解約違約金の項目を十萬香港ドル

から一千万香港ドルに改ざんして、ジャッキー・チェンが契約解除できないようにした。その後、ロー・ウェイプロダクションの契約支配人がジャッキー・チェン側に翻身し、ロー・ウェイが契約書を改ざんしたことの証人となることを約束したため、ジャッキー・チェンは「龍騰虎躍」のクランクインから数日で撮影をポイコットし、移籍先のゴールデン・ハーベスト社がジャッキー・チェン主演・監督第1作「師弟出馬」(1980、英題は「The Young Master」、邦題はヤングマスター)の製作を開始してしまふ。

ロー・ウェイは、契約破棄状態で逃走したジャッキー・チェンを黒社会の犯罪組織を利用して恐喝し、再契約を迫る。ところが、ロー・ウェイは交渉が決裂すればジャッキー・チェンだけでなくロー・ウェイ自身も黒社会から狙われる可能性が危惧されたため、解決策として虚偽の契約であるが一千万ドルの契約違約金をゴールデン・ハーベスト社がジャッキー・チェンへの投資として肩代わりし、ロー・ウェイはジャッキー・チェンの契約及び未公開作品の権利をゴールデン・ハーベスト社に移譲することで和解した。

最も厄介だった黒社会とは、その世界と繋がりの深い香港映画のドン、ジ

ミー・ウォング(王羽)に間を取り持つてもらい、ジャッキー・チェンは黒社会に狙われることはなくなり、ロー・ウェイもまた黒社会と手を切ることができた。その後、ジャッキー・チェンはジミー・ウォングへの義理立てとして、ジミー・ウォングの主演作「迷奇特攻隊」(1982、英題は「Fantasy Mission Force」、邦題はドラゴン特攻隊)と「火焼島」(1991、英題は「Island of Fire」、邦題は炎の大走査線)にノーギャラで準主役として出演した。

以上がジャッキー・チェン主演、ロー・ウェイ助演の映画を見ているようなふたりの因縁めいた複雑な関係だったが、1976(昭和51)年から1980(昭和55)年までの4年間に起こったことは、フィクションではなく紛れもない事実だったようだ。1980(昭和55)年、ジャッキー・チェンがゴールデン・ハーベスト社と契約を結び監督・主演した「師弟出馬」(ヤングマスター・師弟出馬)の撮影に入ったため、ロー・ウェイは撮影開始早々に中断していた「龍騰虎躍」を、ジャッキー・チェンが出演しているわずかなカットと、ロー・ウェイが版權をもっている「笑拳怪招」(クレージーモンキー笑拳)のNGカット、撮影が中止となった未完の「鬼手十八翻」のカット、「拳精」と「龍拳」の本

編カットを流用し、また、ジャッキー・チェンの容姿、体形が似た俳優による追加撮影をおこない不足部分を補って完成させた。つぎはぎによって構成された「龍騰虎躍」はジャッキー・チェンの主演作品として公開された。また、ロー・ウェイが版權をもっていない「師弟出馬」(ヤングマスター師弟出馬)のシーンを著作権者であるジャッキー・チェンやゴールドデン・ハーバスト社の許諾なく使用して完成させたもうひとつのバージョンもあったのだが、ジャッキー・チェンやゴールドデン・ハーバスト社はロー・ウェイを告訴してそのバージョンを封印させてしまった。

「龍騰虎躍」は1983(昭和58)年に製作され、同じ年に香港で公開された。3年後の1986(昭和61)年に日本では東映洋画が輸入・配給して「ジャッキー・チェンの醒拳」という邦題で公開された。3月1日に東京で公開された後、福岡では東映グラウンドで3月8日から4月18日まで、筑紫映劇で4月26日から5月16日まで上映された。同時上映は、東京(関東)では「ジャッキー・チェン拳スぺシャル」というそれまでの東映配給の作品のハイライトシーンを編集した作品だったのだが、福岡(地方)では「北斗の拳」だった。

「北斗の拳」(1986)は、週刊少年

ジャンプに1983(昭和58)年から連載された原作・武論尊、作画・原哲夫による同名漫画を原作としたアニメ映画でテレビシリーズの劇場版だった。漫画の「北斗の拳」は世界じょうに起こった核戦争によって文明と人々の秩序が失われ、争いが繰り返されるといって最終戦争後の20世紀末に暴力が支配する弱肉強食の世界に現れた伝説の暗殺拳「北斗神拳」の伝承者・ケンシロウの生きざまを描いていて、80年代の週刊少年ジャンプを代表する漫画として熱狂的な人気を博していた。テレビアニメ「北斗の拳」は1984(昭和59)年より東映動画(現・東映アニメーション)が製作して、フジテレビ系列で放映されていた。劇場版は、テレビアニメの放送開始から2年後の公開だった。

興行収入は2本込みの入場料でどのような集計(分配)がなされたのか不明だが、「北斗の拳」が18億円、「ジャッキー・チェンの醒拳」が8億円となっている、10億円もの差がついている。漫画を定期購読し、テレビを毎週見ている「北斗の拳」ファンが大勢映画館を訪れたのだろうが、ジャッキー・チェンの人気は相変わらずで、タイトルにジャッキー・チェンの名が入った新作を見逃すわけがない。ところが、「ジャッキー・チェンの醒拳」は大ヒットした「クレイジ

ーモンキー笑拳」(1979)の続編のような意味合いがあっても「クレイジーモンキー笑拳」と全く異なった面白い物の映画だった。「ジャッキー・チェ



ンの醒拳」は、主役のジャッキー・チェンが克蘭クイン早々に降板し、苦肉の策として過去の作品シーンをつなぎ合わせ、ジャッキー・チェンとよく似た

俳優を起用した。ストーリーに一貫性がなく、ジャッキー・チェンの存在が飛んだ作品だった。

かつて同じようにして完成させたのが「ブルース・リー死亡遊戯」(1978)だった。ブルース・リーは、1972(昭和47)年秋にクライマックスのアクション・シーンのみを撮影後に急逝したため、撮影途中で未完となった。それから5年後に「燃えよドラゴン」の監督ロバート・クロンズと香港のサム・ハン・キーボーを監督に起用して、ブルース・リーの代役にユン・ワーやユン・ピョウを使って追加撮影して完成させた。「ブルース・リー死亡遊戯」は主役のブルース・リーが他界してしまったのだが、「ジャッキー・チェンの醒拳」は主役のジャッキー・チェンが降板してしまっただけだから、事情はかなり異なる。ジャッキー・チェンが出演しなくてもジャッキー・チェン主役の映画に仕立てるほどジャッキー・チェンの人気を絶大だったのだが、わざわざジャッキー・チェンの名をいれた邦題にして宣伝した東映の商魂もたいしたものだ。ジャッキー・チェンの主演映画と信じて映画館に足を運んだ観客はだれも怒らなかつたのだろうか。次号に続く

Ⅱ 図版は「ジャッキー・チェンの醒拳」